

■富岡町、葛尾村、川内村、浪江町の役場を訪問しました

5月中旬、福島原発行動隊のメンバーが情報収集のため福島第一原発に近い4つの町村（富岡町、葛尾村、川内村、浪江町）の役場を訪問し、職員と面談しました。

昨年末、政府は警戒区域と避難指示区域等の見直しの方針を打ち出し、それに基づいて本年3月30日には川内村、田村市、南相馬市について警戒区域の解除と避難指示区域の新たな区分けを発表しました。しかしながらそれ以外の市町村では未だ先行きは不透明なままです。

今回の訪問でそれぞれの町村がさまざまな困難に直面していることが確認できました。

●富岡町

5月14日（月）には福島原発行動隊の塩谷亘弘、家森健の両名が日帰りで富岡町役場を訪問し、担当職員3名と面談しました。

富岡町役場（富岡町災害対策本部）は3月中旬に、郡山市にある「ビッグパレットふくしま」から現在地の同市大槻町に移転しています。

富岡町は全区域が警戒区域となっており、避難指示区域の再編については国からの詳細情報がまだ出ていないとのことです。

避難指示区域再編に関する町の方針として国宛てに、警戒区域の解除を行わないこと、損害賠償は全区域差別なく行うこと、住民説明会を早急を実施することなどの要望を出しています。

役場対策本部建屋内には、放射線測定機が設置されており、数値は0.17 μ Sv/hを表示していました。



また郡山市内の公共施設前には、いたるところモニタリングポストが設置されていました。郡山駅前のモニタリングポストでは0.429 μ Sv/hを表示していました。

5月16日、17日には塩谷亘弘、伊藤行夫、家森健の3名が葛尾村、川内村、浪江町の役場を訪問しました。

●葛尾村

葛尾村は全村避難し、役場機能は田村郡三春町の貝山多目的運動公園管理棟に移転しています。

応接してくれた村職員から、復興計画や帰村計画などの説明を受けました。帰村の時期は国の除染実施に沿うことになるとのことでした。また避難指示区域の見直しについては確定時期はいまだ未定のようにです。

公園内駐車場は、避難した村民の仮設住宅群となっていました。

●川内村

川内村の村役場は4月にも訪れていますが、今回も前回同様、副村長の猪狩貢氏が面談に応じてくれました。面談では、帰村後の状況や復興関連事業について説明を受け、福島原発行動隊との今後の協力関係についても話し合いました。

また「村の復興と行政機能再開に向けた帰村の意向調査結果」について説明を受けました。それによると、帰村に関する住民の意識は様々であるとのことでした。

川内村が実施している除染では、住居周り敷地の土壌を格納するフレコンが各戸50～100袋になっているとのことで、村内に設けている5ヶ所の仮置場に膨大な量を移動することになったそうです。



川内小学校は4月1日再開され、一部児童は帰村し登校しています。校庭には、モニタリングポストが二台設置されていました。そのうちの一台は文部科学省が設置した「リアルタイム線量測定システム」です。

作付け制限のため2012年は米作はできませんが、5月13日実験的作付けとして田植えが行われました。これは、各地から駆けつけたボランティアの方々の手植えをしたものです。秋の稲刈りもボランティアの参加を募るとのことです。

村内で偶然、帰村した方にお会いしお話を伺いました。秋本ケサコさんとおっしゃり、「95歳で耳も目も大丈夫」と自慢されていました。3月に帰村されたとのことで「我が家が一番だ」と笑顔でお話されていました。



●浪江町

浪江町は全町が警戒区域と計画的避難区域となっており、併せて除染特別地域に指定されています。

役場機能は、二本松市郭内一丁目にある福島県男女共生センター内に移転しています。応じた職員の方は、言葉を慎重に選びながら話をされました。帰還計画並びに除染計画については未確定のようです。

（以下裏面へ）

町役場での面談後、車を走らせ、県道62号、国道114号を通過して浪江町津島地区を視察しました。津島地区は浪江町の中でもとりわけ線量が高い地区です。

4月に訪れた時には津島中学校で防護服姿の作業員が除染にあたっていました。すでに除染作業は終了しており、校庭にはフレコンが野積みされていました。



校庭で線量を測定すると1.29 μ Sv/hの値を示しました。一定の除染効果があったものの、この数値では中学校を再開するのは厳しいのではないかと印象を受けました。

■第2回関西地区研修会を開きました

5月19日（土）午後1時から5時まで、大阪の保険福祉専門学校を会場に第2回関西地区研修会を開き、29名が参加しました。

第1部では、高山和彦氏が「原子力の基礎と原子力発電」について解説した後「福島原発で起こったことと現状」について講演しました。参加者からは非常に分かりやすかったと好評でした。



第2部では、小林信雄氏の指導のもと、参加者は汚染防止用作業着を着用して放射線計測器の使い方を実習しました。この作業着は通称「タイベックス」あるいは「防護服」と呼ばれていますが、放射線から防護

するための服ではなく、放射性物質が身体に付着するのを防ぐためのものです。また今回は、安価であるものの検出効率の悪いタイプの放射線計測器を試しに使用しました。

■浜岡原発に関する学習会を開きました

5月22日（火）、福島原発行動隊の事務所において原発ウォッチャーチームのメンバーを中心に浜岡原発に関する学習会を開きました。

学習会にはNHKの元解説員である小出五郎氏をお招きし、約35年前に当時NHKのディレクターだった小出氏が企画・制作した科学ドキュメンタリー番組「耐震設計」（1977年）のDVDを見ながら、作品の制作意図や放映に至る経緯についてお話をうかがいました。

浜岡原発の1号炉と2号炉は福島第一原発の1号炉から5号炉と同じマーク1型と呼ばれる原発で、すでに運転終了となっています。それゆえ浜岡原発での廃炉作業の経験は、福島第一原発の今後の廃炉作業にも参考になると言われています。

この番組はもともと「浜岡原発は地震に耐えるか？」と題され、浜岡原発の耐震設計がきわめて危ういものであることを指摘するものでした。しかし編集の過程でプロデューサーから内容やナレーションにいろいろと注文がつけられ、タイトルも「耐震設計」と「中立的」なものに変えられました。

毎日新聞の報道によれば、今回の福島第一原発事故の報道にあたって、ETV特集取材班のスタッフが口頭処分を受けたとのことで、学習会ではジャーナリズムのあり方についても意見交換がなされました。

活動報告（5月14日～5月29日）

活動内容	月/日	場所
谷岡郁子参議院議員と会談	5月14日	谷岡郁子事務所(東京・港区:参議院議員会館)
牧山ひろえ参議院議員と会談	5月14日	牧山ひろえ事務所(東京・港区:参議院議員会館)
富岡町災害対策本部・訪問	5月14日	富岡町役場(福島県郡山市)
葛尾村役場・訪問	5月16日	葛尾村役場出張所(福島県田村郡三春町)
川内村役場・訪問	5月16日	川内村役場(福島県双葉郡川内村)
浪江町役場・訪問	5月17日	浪江町役場(福島県二本松市郭内)
SVCF事務局連絡会	5月18日	SVCF事務所(東京・北区)
福1原発:廃止措置ナショナル・プロジェクト会議	5月22日	SVCF事務所(東京・北区)
環境省主催「除染等業務講習会」受講	5月24日	大田区産業プラザPiO(東京・太田区)
SVCF事務局連絡会	5月25日	SVCF事務所(東京・北区)
福1原発:廃止措置ナショナル・プロジェクト会議	5月25日	SVCF事務所(東京・北区)
Webサイトプロジェクトチーム・ミーティング	5月25日	SVCF事務所(東京・北区)
院内集会打合せ	5月29日	SVCF事務所(東京・北区)
東日本大震災支援全国ネットワーク総会オブザーバー参加	5月29日	日本青年会議所(東京・千代田区)

原発ウォッチャー報告（4月分）

原子炉	圧力容器温度計交換のための模型実験を実施
滞留水	塩ビホース配管を内部補強されたポリエチレンホースに交換実施中（鋼管への変更の計画はなし）。原子炉建屋西側に井戸を掘って地下水を上流で汲み上げ、建屋への侵入を減少する対策の準備を開始
海洋汚染	港湾内海底土の被覆工事を開始、5月中に完了予定。20km圏内の魚介類、茨城県沖海水、宮城県沖海水などモニタリングを継続中
放射性廃棄物	汚染水処理の二次廃棄物の処理・処分を計画するための性状分析などに着手。原子炉解体処分概念の検討を開始
使用済み燃料	1～4号機の燃料プールから取り出す使用済み燃料を保管するための共用プールの復旧および付帯施設の工事中。4号機燃料取出し用構造体（クレーンなど新設）用の地盤改良工事中。4号機建屋補強完了、プールの水平度確認。4号炉屋上瓦礫撤去作業中
燃料デブリ取出し	原子炉建屋内汚染調査用ロボットを5号機でテスト、5月から1～3号機で調査開始予定。格納容器の水漏れ箇所確認をトライ中なるも、成果得られず。調査方法などさらに検討中
作業員被ばく	3月の外部被ばく者5,481人、最大被ばく19.06 mSv